Urban Design Lab. Magazine

東京大学都市デザイン（西村・窪田）研究室
工学部都市工学科／工学系研究科都市工学専攻
http://ud.t.u-tokyo.ac.jp/index-j.html

編集長　：大森 文彦
編集委員：石井 かおる　北川 貴巳　松本 綾
柏原 葉那　越村 高至　萩原 拓也　福士 薫

都市デザイン研マガジン vol.177　2012.8.25

真夏の PJ 活動特集！

ー4つの PJ からの活動報告ー

The special edition of PJ in midsummer .

— The Reports of 4 PJ —

text_ishii

夏真っ盛りで暑苦しい日々が続きますが、皆さま如何お過ごしでしょうか。猛暑の中でも研究室の PJ 活動の歩みは止まりません。そんな暑さ知らずの４つの PJ から、今夏の活動報告をして頂きます！

清水 SHIMIZU-project プロジェクト

text_hagiwara

みなとづくり WS 開催

８月 18 日 (土) に清水の海洋博物館であるフェルケール博物館の協力の元、「みなとづくり WS」を開催しました。午前中は２班に分かれ、清水港内を親子で歩き、その後、清水港の歴史や役割についてレクチャーを行いました。午後は、子供たちに未来の清水港に “ あったらいいな ” という物を模型で作ってもらいました。大きな橋を架けたり、風力発電の風車を作ったりと、子供らしい発想の模型が出来上がり、地域の子供たちに、港の未来について考えてもらう良い機会となりました。夕方からは、静岡市葵区七軒町の映画館跡にオープンしたイベント広場「アトサキ７」に伺いました。来年４月までの利用ですが、まちに賑わいを取り戻そうという市や地元の方の意気込みが感じられました。

▲子供たちと清水港を探検中！

▲完成した模型を前に参加者と記念撮影

鞆 TOMO-project プロジェクト

text_kashiwabara

空地活用に向けた調査実施

８月８日 (水) ～ 10 日 (金) に鞆 PJ の現地調査を行いました。主な目的は、現在作成中の空地活用に向けた冊子のための補足調査です。始めの二日間には龍谷大学から阿部大輔先生と、大学２年生のゼミ生８名が参加！ 龍谷大学の８名は強い日差しにも負けず、若さと元気で空地と空き家の調査をサポートしてくれました。空地の利用者へのヒアリングでは、突然の訪問にも快く応えてくれる鞆の人々の優しさに触れる事が出来ました。３日目には窪田先生が合流し、車の混雑が問題となっている県道沿いで、空地を利用した車の待避行動の実態調査を行いました。今後は、９月中旬に空地活用の冊子を完成させ配布し、９月末には全国まちづくり会議に参加予定と、鞆 PJ のあつい夏はまだまだ続きます。

▲龍谷大・阿部ゼミの皆さんとの MTG

▲空地で夕涼み中の方へインタビュー

佐原 SAWARA-project プロジェクト

新領域創成科学研究科社会文化環境学専攻 M1 小笠原 れい子

地元の方との交流＆祭りから魅力再発見

盆ふぇすたが行われる８月 18 日 (土) に現地調査を行いました。当日は佐原に着くとどしゃ降り！でしたが、昼前には雨も上がり、強い日差しの中での調査となりました。まずは地元の方へのヒアリングを行いましたが、アポなしの訪問にも関わらず皆さん快く応じて下さり、昔の小野川や商店の様子など大変貴重なお話を伺うことができました。「盆ふぇすた」が賑わってくる夕方からは、小野川沿いでアンケート調査を行いました。地元の方の意見から現在の佐原に求められていることを把握し、今後の提案に活かしたいと考えています。私は盆ふぇすたは初めてでしたが、佐原の雰囲気にとても合っていて、新たな魅力を発見できました。

▲地元の方へヒアリング

▲盆ふぇすたで行われる「嫁入り舟」

水 MIZU-project プロジェクト

text_koshimura

歴史ある鬼怒川を歩く

８月８日 (水)、窪田先生、M2 安東、M1 越村で栃木県内を流れる鬼怒川周辺を見学しに行きました。この辺りでは鬼怒川沿いに霞堤と呼ばれる、洪水の際に堤内に湛水させることで治水機能を発揮する不連続な堤防が見られる他、かつては鬼怒川が利根川水系の舟運の中で東北諸藩と江戸を結ぶルートとしての役割を担い、上五ヶ河岸と呼ばれる５つの河岸が立地した所でもあります。以前、渡良瀬川と利根川の合流域へ見学に行きましたが、河道自体の形態が違うだけでなく、周辺の集落・建物の立地の仕方も異なる様に感じました。今後は同じ利根川水系の河川や荒川などと比較しながら、河川と都市の関係を考察していきます。

▲堤防の不連続部分

▲鬼怒川沿いに残る石造りの蔵

博士論文審査会開催！
The Final Defense of Dissertation was Held!

８月16日(木)に博士課程３年の徐桐さんの博士学位請求論文審査会が開かれました。本号では発表者のコメントをお届けします！

“Be nervous but not miss the concern from the friends”

Ｄ３　徐 桐

16th August 2012, I took the final defense of my dissertation.

As receiving Ishii-San’s email, in which I was asked to write an article about my feeling during the defense, the first word appearing in my head was “nervous”, of course, especially when you present a whole-heartedly devoted dissertation to be judged. Here I feel like a cook, who had prepared a new kind of dish with heart, and best reward is no doubt the admission of the guests. And also just as the comment from the guests will helps the cook know how to improve the taste of the dish, the comment of the judges also forced me to re-consider my research and try to make it more “delicious”. At such viewpoint, being nervous is not so bad, and even needed for concentrating yourself on explanation and re-think of your loved works.

The bad effect brought by the “nervous” is that, at that time, I focused too much on the presentation and response to the professors, and consequently somehow missed the concern from my friends, who participated and tried to convey their support to me, Kurose-san, Fu-san, Matsui-san, Nattapon-san, Wang-san, Pornsan-san, Mori-san, Tian-san, Lee-san, and also Ikarashi-san. I felt that concern and support these days when I recall the details of the defense. Thus if being asked whether I have some regret for the defense, this is the biggest one.

I don’t want to give academic or research relevant suggestion here, but still I have to share one well known experience, that is to explain and discuss with the committee members and practice more before the presentation, and furthermore, to make a well-information transferred powerpoint which can be fetched in short time for the professors.

▲審査会後に先生方と一緒に（左から、藤井先生(東大･建築)、出口先生、西村先生、徐さん、窪田先生、城所先生）

ドイツ留学体験記
Exchange program in Germany

約１年の交換留学を終えて先月帰国した、空間計画研の遠藤さんに留学体験談を語って頂きます！

空間計画研究室 Ｍ２ 遠藤 友里恵

▲雪の残るミュンヘン（ドイツ）の街並み

▲旅行先、洞窟住居の町マテーラ（イタリア）

「AUSMIP プログラム」という日本と欧州４カ国間の交換留学制度を利用し、昨年９月から今年の７月までドイツに留学をしてきました。今回の滞在は、私にとっては海外に「住む」初めての経験でした。

約１年の滞在で一番自分が変化したと感じることは、今までより更に更に神経が図太くなったことです。ドイツに住み始めた頃は、ドイツ語のみならず英語すらままならず、書いてあることも周囲の人々が話す言葉も分からず、当惑していました。

しかし、そんな状態で長く過ごすことはできず、段々と気にしないことが増えていき、ドイツ語で理解できない話をされてもたじろがないようになっていきました。

今回の滞在中は旅行にも多く行く事が出来、多くの「本物」に会いに行く事ができました。今まで本の中でしか見たことがなかった建築や都市、景観を実際に見て、感じる事で、随分と印象が変わったものも多くありました。

本で読んで分かること、自分で見て分かること、そこに住んでみて分かること、それぞれ得るものが違うということを身を持って感じることができました。

この１年でのさまざまな経験を通し、都市に関わる人として、そしてまず１人の人間として、生きていく為の基礎力を養成することが出来たと思います。

Information

８・９月の予定

８月29日　ヴェネツィア・ビエンナーレオープニング(松田先生参加)
９月12～13日　建築学会大会(東海)研究発表

編集後記

石井 かおる

先日、研究室の方々とたまがわ花火大会へ行ってきました！都内の花火大会は夏の風物詩と言う事もあり、毎年大変込み合う＆家からも小さいが見えるという理由で敬遠しておりましたが、私は愚かでした。実際に近くで、音楽に合わせて打ち上がる色とりどりの花火は感動そのもの☆あまりの興奮で終始騒いでおり、周りの皆さんすみません。今回の経験で、実際に現場へ足を運ぶ大切さを改めて感じました。食わず嫌いはダメですね。何事も経験！残暑お見舞い申し上げます。